

先週の礼拝メッセージ(2022年3月6日) ベン牧師

「闇の中にある人々」 エフェソの信徒への手紙 4:17-19

今日の主題「闇の中にある人々」とは、当然クリスチャンのことではありません。7節の「異邦人」とは、聖書の内容を知らない、まだイエス様を信じていない人々のことです。残念ながら、今の日本のほとんどの人は、「闇の中にある人々」に当てはまるでしょう。

「彼らは愚かな考えに従って歩み、知性は暗くなり、彼らの中にある無知とその心のかたくなさのために、神の命から遠く離れています。」
(17、18)

とても悲しくなるみことばの表現です。当時、エペソにはアルテミス神殿があり豊穡の神として崇められていました。神殿では性的な罪が蔓延していました。しかもそれが罪との認識もありませんでした。

聖書が罪と言っていることが、世の中では、みんなが行なっている常識となっているということは、当時のエフェソだけではなく、現代にも通じるところでしょう。

さらに、「世の常識」が教会の中にも入ってくるということが、現実起こっています。正直、聖書の言葉をまっすぐに語ろうとすると、この世の常識からずれることは多々あります。婚前交渉、偶像礼拝、金銭感覚など、数えたらキリがありません。私たちが福音を伝える相手は、そういう人たちなのです。

では、どのようなことに気をつけて語るべきでしょうか。

まず第一に、17節で「強く薦めます。」「歩んではなりません。」と言っているのは、私たちクリスチャンに向かっての言葉であるということ覚えましょう。まだ神様を知らない人たちの罪や間違いに対して、配慮をもって語るべきであり、まずは相手が心を開く工夫が必要でしょう。しかし、相反するように聞こえますが、私たちはこの世と一線を引くことは大切です。この、配慮を持つことと、一線を引くことを祈りつつ愛をもってこそ、福音が伝わるのです。

二つ目は、私たちもかつては17~19節のような生活の中、暗闇の中にいた者だということを忘れないということです。人間は生まれながら罪人です。

「あなたがたは以前には肉によれば異邦人であり」(エフェソ 2:11)

「あなたがたは、以前は自分の過ちと罪のために死んでいたのです。・・・以前は肉の欲望の赴くままに生活し、肉や心の欲するままに行動していたのであり、ほかの人々と同じように、生まれながら神の怒りを受けるべき者でした。」(エフェソ 2:1-3)

上記のみことばの通りです。たとえクリスチャンホームに生まれ、教会学校に行っていたとしても、それで救われるわけではありません。その人の中に聖霊がいてくださり、神に従おうという思いがなければ救いを受けることはできません。

このことを思うと、今の私たちが次の世代へ信仰を継承していくことの大切さを思います。

かつて自分が滅びの道を歩んでいたからこそ、私の周りの人々や家族に対して、証となる言動を取るべきではないでしょうか。それは律法を押し付けるのではなく、どれだけ神様が私たちを愛してくださっているかを伝えることです。それができるのは、私たちしかいないのです。

神を知らない、信じないというのは、聖書の標準からすれば「闇の中にいる人々」なのです。そして、闇の行く先は滅びなのです。

彼らの価値観を尊重しつつも、正しい福音を愛をもって伝えていくことはとても大切なことです。

かつては闇の中にいた私に、誰かが祈り続けてくださり、伝え続けてくださり、一方的な神の恵みによって救っていただいたのです。

聖書の中に、ある人がイエス様に、律法の中で一番大切な戒めを問うた時、神を愛し隣人を愛することだとイエス様はおっしゃいました。律法の中心である十戒のことは一言も触れませんでした。なぜなら、神を愛するなら、神様の嫌がることはしないからです。

まず先に救いに預かった私たちが、心から神を愛する者となりましょう。そして私たちが愛をもって、周りの人々に、家族に福音を伝える時、神様は闇の中にいる人々にまことの光を与えてくださいます。

